

## 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	230	国際性に富む人材育成留学事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部課名	教育庁県立学校教育課	事業実施(予定)年度	H24 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	海外での異文化体験等を通して、国際的な視野を広げ、グローバルな人材の育成に資するため、高校生の留学費用を補助する。						
効果発現年度	■当年度    □後年度(    年度)						
実施方法	□直接実施    ■委託    □補助    □負担    □その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】			H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度
	予算の状況	(a)当初予算額	215,030		166,488		175,682
		(b)予算現額	215,030		166,488		174,659
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	▲1,023
		(d)前年度繰越額	—				
		A.計(b+d)	215,030	0	166,488	0	174,659
	B.執行済額		201,696		160,319		172,887
	うち交付金充当額		161,357		128,255		138,309
	C.次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		93.8%	#DIV/0!	96.3%	#DIV/0!	99.0%
予算の状況の説明		執行率は99.0%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	高校生85名を約1年間、アメリカ、欧州、アジア、オセアニア、南米諸国へ派遣。		目標	高校生75人	高校生75人	高校生85人	高校生85人
			実績	高校生75人	高校生80人	高校生85人	高校生87人
達成状況説明	・高校生87名を海外19の国と地域へ派遣することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(H24年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(〇〇年度)
	派遣者の国際的な視野が広がったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。	目標	—	—	80%以上	80%以上	—
		実績	—	—	高校生93% 大学生100%	高校生97% 保護者99%	—
	【H29以前の成果目標】(高校生)海外大学への進学や再度海外への留学を目指したいと考えている生徒の割合 85%以上(大学生等)留学での研修成果を今後の活動または現在の職に活かしていきたいと考えている者の割合85%以上	目標	—	高校生85%以上 大学生等85%以上	—	—	—
		実績	—	高校生89% 大学生等100%	—	—	—
進捗状況説明	・年度を跨ぐ事業であり、R1年度は、H30年度に派遣され、R1年度に帰国した派遣生へ帰国後のアンケートを行った。そのアンケートでは、高校生について「国際的な視野が広がった」と回答したものが、97.0%であった。選考試験内容について更なる語学力、積極性、目的意識の高さ、コミュニケーション能力を計る選考試験を実施する必要がある。また、保護者について「国際的な視野が広がった」と回答したものは98.8%であった。多くの派遣生と保護者が留学体験を肯定的に捉えており、今後の進路や活動に大きく影響を与えることが期待される。 ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴いR1年度派遣生は安心・安全の観点かR2年3月事業中止を決定。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①引き続き、派遣者が現地で生活する上で必要となることを事前に研修を通して学ぶ機会を設ける。コミュニケーションツールとしての外国語の習得や異国の地で異文化の中で生活していくため、ある程度、事前に異文化を理解しておく必要がある。(経験豊かな講師や過去の派遣生の活用により、事前研修が充実した内容となっている。)	①事前研修等において、長期留学に向けての心構えや意識の向上を図り、コミュニケーション能力や異文化の中での長期生活について、経験豊かな講師や過去の派遣生による体験談から生活習慣の違い等を学ばせていく。H29年度の事例を追加、時点修正して更なる充実を図る。
	②引き続き、研修先において現地高校での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、英語力、積極性の高い生徒を選考する必要がある。(選考試験にグループワークを取り入れることで派遣者の意識の向上に繋がった)	②英語力、積極性の高い生徒を選考するため、引き続き、事前課題を与えたり、選考試験においてグループワークを実施していく。(更なる派遣者の意識の向上等を図る。)
	③新型コロナウイルス感染症の拡大による事業中止は、外務省の海外渡航情報や大使館等からの情報と、現地事務所からの派遣先情報、他団体の動向を踏まえ行った。	③今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を注視し、R2年度派遣の可否を検討する。
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>①事前研修においては、引き続き長期留学に向けての心構えや意識の向上を図り、コミュニケーション能力や異文化の中での生活について、経験豊かな講師や過去の派遣生の活用を実施し、2月の事前研修の場が、派遣者ひとりひとりにとっての模擬留学となるよう充実化を図る。</p> <p>②英語力、積極性の高い生徒を選考するため、引き続き、事前課題を与えたり、選考試験においてグループワークを実施し、派遣者85名の意識の向上を図る。</p> <p>③今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を注視し、R2年度以降の派遣可否を検討する。</p>		

資金の流れ						
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
172,887	172,887	138,309	34,578	0	0	0
<p>(1)国際性に富む人材育成留学事業</p> <pre> graph LR     A[沖縄県 交付対象事業費 172,887千円] --&gt; B[委託料 172,887千円]     B --&gt; C[日本国際生活体験協会 (EIL Japan) 172,887千円]     </pre> <p style="margin-left: 400px;">( R2年度派遣生に係る募集・選考業務 R1年度派遣生に係る委託業務(派遣・滞在) H30年度派遣生に係る委託業務(滞在・帰国) )</p>						

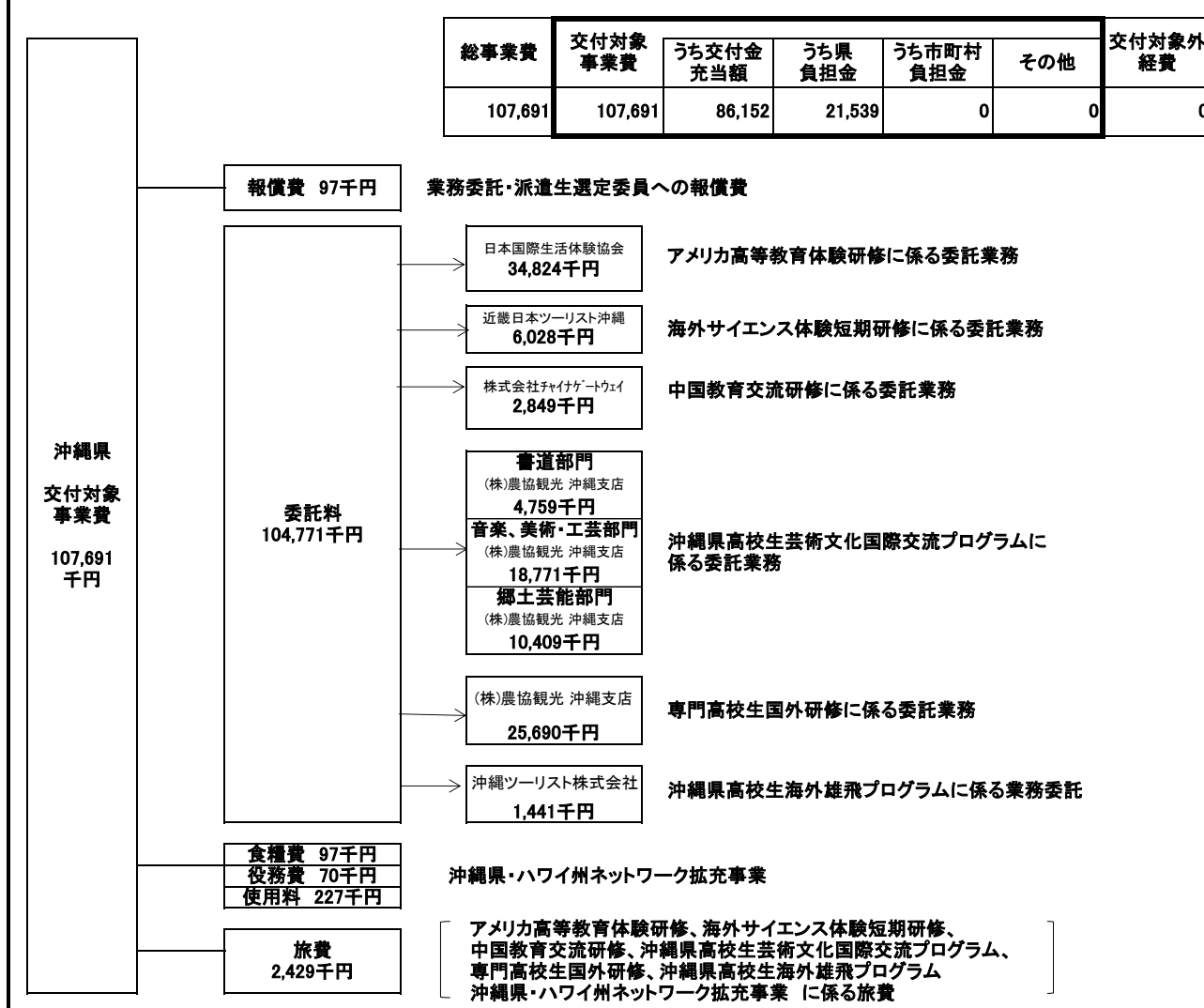
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託先については、公募によるプロポーザル形式で決定した。H30年度派遣生の帰国に係る業務、R1年度派遣生の派遣に係る業務、R2年度派遣に向けての募集選考業務を行ったが、委託先がそれぞれ業務を円滑かつ確実に遂行した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	231	グローバル・リーダー育成海外短期研修事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア				
担当部課名	教育庁県立学校教育課・文化財課	事業実施 (予定)年度	H24 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)			
事業内容	①海外での短期研修を体験させることで、国際的な視野を広げ、グローバルな人材を育成するため、高校生の留学費用を補助する。 ②中高生へ国際交流や留学への理解を深めてもらうため、海外雄飛プログラム参加者OB、ハワイ州高校生との交流イベントを実施する。							
効果発現年度	■当年度    □後年度(    年度)							
実施方法	■直接実施    ■委託    □補助    □負担    □その他(    )							
予算額・ 執行額 【単位:千円】			H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	121,194			119,984		131,498
		(b)予算現額	121,194			119,984		131,498
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額						
		A. 計(b+d)	121,194	0	119,984	0	131,498	
	B. 執行済額		120,947		119,751		107,691	
	うち交付金充当額		96,757		95,801		86,152	
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		99.8%	#DIV/0!	99.8%	#DIV/0!	81.9%	
予算の状況の説明		・R1年度予算は、消費税の増および単年度事業として実施した沖縄県・ハワイ州ネットワーク拡充事業に係る経費計上を計上したことにより、H30年度に比べ11,514千円増額となっている。 ・執行率は81.9%であり、新型コロナウイルスの世界的な拡大により、2月~3月に予定していた3事業の派遣を中止したため、執行残が発生したことによるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	①海外短期研修派遣者数214人	目標	240人	234人	215人	214人		
		実績	240人	234人	215人	144人		
	②交流イベントの実施	目標	-	-	-	260人		
		実績	-	-	-	260人		
達成状況説明	アメリカ高等教育体験研修(40名)、沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(64名)、専門高校生国外研修(40名)を派遣した。 沖縄県・ハワイ州ネットワーク拡充事業においては、交流30回記念式典・レセプションを実施し中高生等260名が参加した。 2月~3月に予定していた海外サイエンス体験短期研修、中国教育交流研修、沖縄県高校生海外雄飛プログラムについては、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、安心・安全の観点から派遣を中止した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (R2年度)	
	保護者へのアンケートで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標	-	-	-	80%以上	80%以上	
		実績	-	-	-	95.2%	-	
	海外雄飛プログラムに参加した経験のない中高生の国際交流や留学への理解がより深まったか(80%以上)を含め、当該事業の在り方をアンケートにより検証する。	目標	-	-	-	80%以上	-	
		実績	-	-	-	95%	-	
	進捗状況説明	・各研修実施後の保護者アンケート(設問:「参加した高校生(お子さん)は、国際的な視野が広まったと思うか等)を実施したところ、①アメリカ高等教育体験研修(97.4%)、④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム【書道部門(100%)】、【音楽部門(100%)】、【美術工芸部門(100%)】、【郷土芸能部門(93.8%)】、⑤専門高校生国外研修(80%)という結果が得られたことから、達成できた。 ・ハワイ州ネットワーク拡充事業での生徒アンケート(設問:「式典に参加して国際交流について理解が深まった等)を実施したところ、95%という結果が得られたことから、達成できた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①現地での授業参加や交流等をより高いレベルで推進するため、事前研修ではコミュニケーションツールとしての語学力を身につける語学研修や積極性を高める取り組みが必要がある。 ②研修先において現地大学での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、語学力の高い生徒や積極性のある生徒を選考する必要がある。 ③新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、渡航中止や延期となることを鑑み、テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意する必要がある。	①事前研修等において、外国語講師を活用した語学や異文化理解に関する研修内容を実施し、外国語で意見交換できるコミュニケーション能力を育成する必要がある。 ②実践的な外国語のコミュニケーション能力を測るため、英作文試験や面接試験において語学力、積極性を測る選考試験を実施する必要がある。 ③外務省および大使館等からの海外渡航情報等を迅速に入手し、委託業者や現地研修先等との綿密な連携を図る。
	今後の取り組み方針	
①引き続き、現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した外国語運用能力をより高める研修や異文化理解についての事前研修を実施。 ②実践的な外国語コミュニケーション能力を測る英作文試験や面接試験内容の構築。 ③テロや感染症等の最新情報を外務省および大使館等から常に入手し、受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を行う。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を動案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	